

2026.1.27



カルガモ



カトリヤンマ



カワセミ

# 印西市自然環境調査 中間報告



アカタテハ



ニホンマムシ



マヤラン



トウキョウダルマガエル



# 目次

・はじめに	3
・自然環境調査概要	5
・調査地区の環境	7
・2025調査結果	8
植物	9
哺乳・爬虫・両生類	10
鳥類	12
昆虫類	14
魚類	16
・2011-2025経年比較（魚類調査）	17
・特定外来生物	18
・まとめ	20
・今後の方針について	21



モモイロペリカンのカンタ君 20250723 印旛沼①

# はじめに



基本目標と関連するSDGs

印西市では第3次印西市環境基本計画において、目指す将来の環境像として

「みんなでつくる自然と暮らしが調和した快適でやさしいまち いんざい」

を設定している。

それに伴う5つの基本目標のうち、自然環境については  
「豊かな自然の恵みを受け 潤いと安らぎを感じられるまちづくり」を目指している。

この基本目標を達成するために、以下の3つが個別目標として設定されている。

- ① 谷津と台地を中心とした里山の保全
- ② 生きものの生息・生育空間の保全
- ③ 暮らしと自然のつながりの確保

重点的な取り組みの一つとして「自然の力を活かそう！グリーンインフラ大作戦！！」が掲げられている。  
里山やいきものの**生息・生育空間の保全**は、さまざまな地域課題の解決にもつながるテーマである。

(防災・減災、地域振興など)

# はじめに

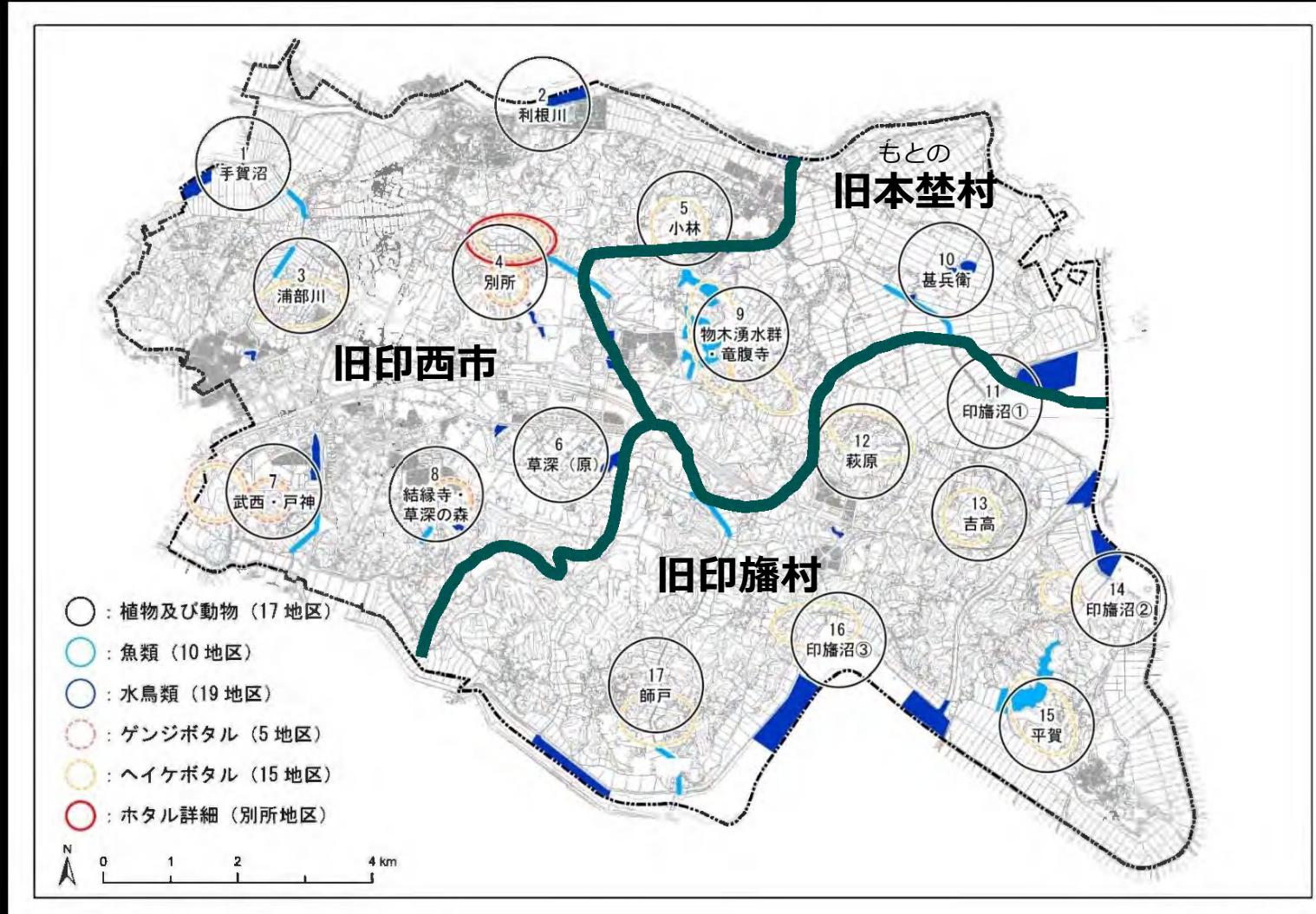
- 特に2つ目の個別目標である「生きものの生息・生育空間の保全」を達成するために、環境指標として「生き物の生息・生育種数」が設定されており、基準年度(2020年度)と比較して、在来種数の現状維持と外来種数の現状以下の目標が定められている。
- 現状を把握するため、2002年度以降、市の全域を対象とした自然環境調査を6回実施し、今回の調査結果をもとに2026年に中間評価する計画となっている。

第3次印西市環境基本計画における環境指標  
(生きものの生息・生育種数)

指標	現状 2020	中間 目標 2026	最終 目標 2031
在来種の 生息・ 生育種数	植物 動物	682 8	現状維持
	鳥類	96	
	爬虫類	10	
	両生類	6	
	昆虫類	716	
	魚類	12	
外来種の 生息・ 生育種数	植物 動物	285 2	現状以下
	鳥類	4	
	爬虫類	2	
	両生類	2	
	昆虫類	21	
	魚類	13	

# 自然環境調査概要（これまでの経緯）

- 調査は2002年から約5年ごとに行われてきた。
- 2010年の印旛村及び本塙村との合併後は調査地区数が増加。
- 2011年以降の調査は右の17地点で実施(※)
- 市内のさまざまな環境(草原、樹林、谷津、水田、水域など)を含むように調査地区を設定。



※一部調査地区の移動をしている

# 自然環境調査概要 (2025実施状況)

- 調査は2025～2026年にかけて実施し、現段階で終了している夏季と秋季の結果のみを報告する。
- 全調査が終了している魚類のみ経年比較した結果を報告する。
- 水鳥類、ホタル類、ホタル詳細調査は未調査のため、2026年の調査後に報告予定である。

調査項目		調査回数	調査時期				
			2025	2026			
植物・動物	植物	3	夏季	秋季	—	春季	
	動物	哺乳類	4	夏季	秋季	冬季	春季
		鳥類	4	夏季	秋季	冬季	春季
		爬虫類	3	夏季	秋季	—	春季
		両生類	3	夏季	秋季	—	春季
		昆虫類	3	夏季	秋季	—	春季
		魚類 ●	1	夏季	—	—	—
その他	水鳥類	1	—	—	冬季	—	
	ホタル類	1	—	—	—	初夏	
	ホタル詳細	1	—	—	—	初夏	

赤字 : 実施済み

: 全調査工程が終了している項目

# 調査地区の環境

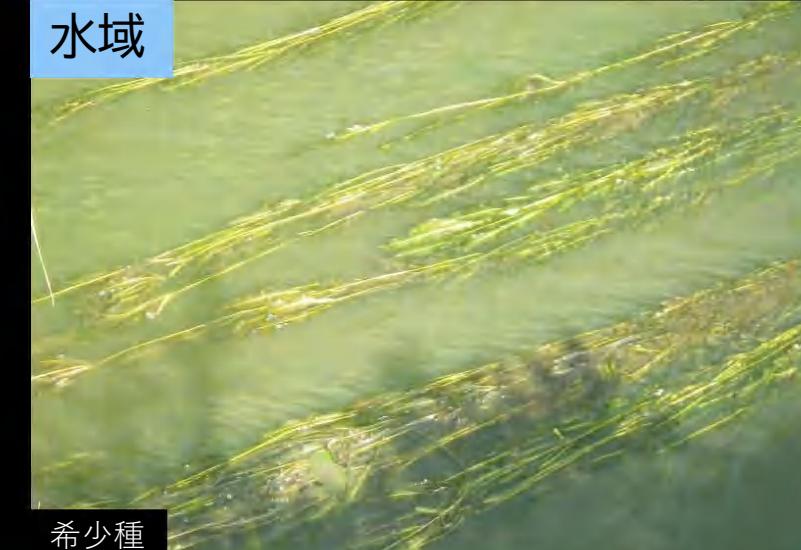
- 印西市を代表する5つの環境が含まれるように調査地区が設定されている。

流域	調査地区																	
	手賀沼流域					印旛沼流域												
環境	手賀沼	利根川	浦部川	別所	小林	草深（原）	武西・戸神	草深の森	結縁寺・龍腹寺	物木湧水群	甚兵衛	印旛沼①	萩原	吉高	印旛沼②	平賀	印旛沼③	師戸
草原	●			●			●				●			●	●	●	●	
樹林		●			●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	
谷津		●	●	●	●		●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	
水田	●		●						●	●	●		●	●	●	●	●	
水域	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	



# 2025調査結果 (植物)

- 確認種は829種で、そのうち希少種(レッドリスト等の掲載種)が54種であった。
- 14種の希少種が初めて確認された。
- 確認種数は武西・戸神(408種)や吉高(376種)、浦部川(371種)のように樹林や水域など複数の環境を有する地区で多かった。



# 2025調査結果 (植物)



スズサイコ 20250725 武西・戸神



ノハナショウブ 20250725 武西・戸神



ムクゲアカバナ 20251006 別所



マヤラン 20250718 小林



フナバラソウ 20251007 武西・戸神



マツバラン 20251027 萩原

# 2025調査結果 (哺乳・爬虫・両生類)

- 確認種は哺乳類が9種、爬虫類が11種、両生類が6種であった。希少種は順に2種、8種、4種であった。
- 哺乳類ではタヌキとアズマモグラ、爬虫類ではニホンカナヘビやヒガシニホントカゲ、両生類ではニホンアカガエルやヌマガエルが多くの地区で確認された。
- 特定の環境だけでなく幅広い環境で確認される種が目立った。



# 2025調査結果 (哺乳・爬虫・両生類)



カヤネズミの巣 20251024 浦部川



ヤマカガシ 20250722 物木湧水群・竜腹寺



ヒバカリ 20250717 甚兵衛



ニホンアカガエル 20250724 結縁寺・草深の森



トキヨウダルマガエル 20250722 物木湧水群・竜腹寺



シュレーゲルアオガエル 20250724 結縁寺・草深の森

# 2025調査結果 (鳥類)

- 確認種は48種で、そのうち希少種が23種であった。
- 手賀沼や印旛沼①(39種)のように水域環境で特に確認種数が多かった。
- 種によって確認される環境はある程度決まっているが、移動能力が高いため多くの地区で確認される種もあった。

草原



樹林



水域



# 2025調査結果 (鳥類)



ヒクイナ 20251024 印旛沼②



クロハラアジサシ 20250723 印旛沼①



ヨシゴイ 20250723 印旛沼①



サシバ 20250725 浦部川



オオヨシキリ 20250725 手賀沼



セッカ 20250930 印旛沼①

# 2025調査結果 (昆虫類)

- 確認種は517種で、そのうち希少種が24種であった。
- 確認種数は物木湧水群・竜腹寺(174種)や浦部川(171種)、師戸(170種)で多かった。
- 樹林や水域など複数の環境を有する地区で特に種数が多い傾向が見られた。

草原



ベニシジミ 20250717 手賀沼

樹林



カブトムシ 20200725 武西・戸神

水域



希少種

ウチワヤンマ 20250717 平賀

# 2025調査結果 (昆虫類)



アサマイチモンジ 20250725 浦部川



オオチャバネセセリ 20250723 吉高



チュウゴクアミガサハゴロモ 20251024 吉高



チョウトンボ 20250717 別所



ヒメジュウジナガカムシ 20250722 基兵衛



タマムシ 20250724 結縁寺・草深の森

# 2025調査結果 (魚類)

- 魚類調査は夏季のみの実施ですべて終了している。
- 2025年は23種が確認された。そのうち希少種が7種であった。
- 確認種数は物木落し、師戸川下流、平賀地区用水路が14種で最多であった。
- ホトケドジョウとカラドジョウ、チョウセンブナの3種は初めて確認された。



ホトケドジョウ 20251023 武西・戸神



カラドジョウ 20250909 物木湧水群



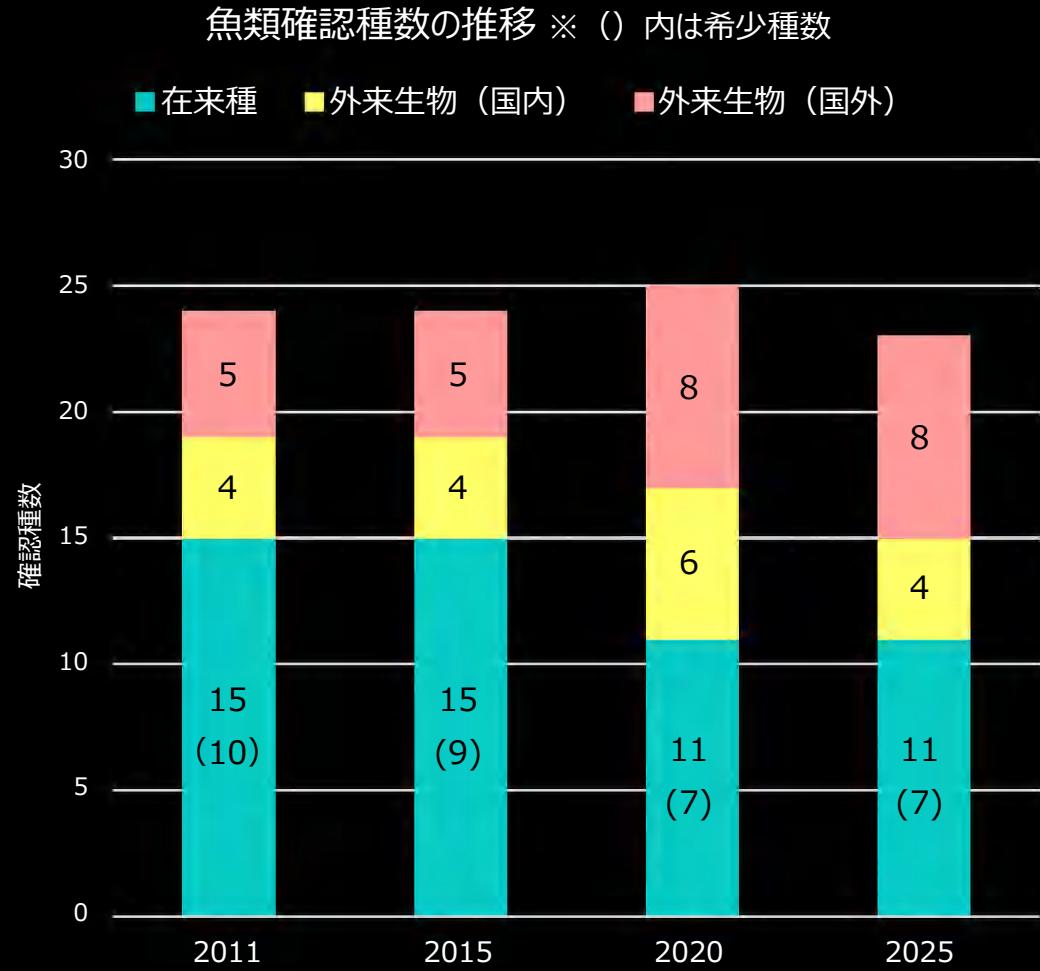
ヤリタナゴ 20250912 浦部川



チョウセンブナ 20250909 物木湧水群

# 2011-2025経年比較（魚類調査）

- 2011年以降の調査では24~25種が確認されており、2025年は過年度と比べてわずかに少ない結果であった。
- カマツカやワタカ、ウグイ、グッピーなど過去も確認が少ない種が2025年は確認されなかった。
- 在来種や希少種は2011年度以降減少傾向にあり、外来生物は種数だけでなく確認地点数も地区数増加傾向にある。全体種数の増減からは見えない魚類相の**質の変化**にも留意する必要がある。



# 特定外来生物 (陸域)

- 全体で15種(陸域6種、水域9種)の特定外来生物が確認された。



アレチウリ 20251007 武西・戸神



オオキンケイギク 20251027 甚兵衛



オオカワヂシャ ※過年度撮影



アライグマ (足跡) 20250930 萩原



ガビチョウ ※他地域で撮影



アカボシゴマダラ 20250725 武西・戸神

# 特定外来生物（水域）

- アメリカザリガニとアカミミガメは2023年に条件付特定外来生物に指定された。



ナガエツルノゲイトウ 20250722 印旛沼①



オオフサモ 20251009 印旛沼③



カミツキガメ 20250911 武西・戸神



ミシシッピアカミミガメ 20250723 印旛沼①



オオクチバス 20250908 浦部川



アメリカザリガニ 20250911 戸神川

# まとめ

- 魚類調査:確認種数は基準年を下回ったが、希少種であるホトケドジョウが新たに確認された。在来種の種数は減少し、外来生物も増加している。
- 調査が途中のため、基準年の確認種数を満たしている項目はない。冬季、春季の調査で引き続き生息種の把握に努める。
- 植物や昆虫の種数はさまざまな環境がある場所で多く、鳥類は広い水辺がある場所で多い。哺乳、爬虫、両生類は地区の環境にあまり依存していない種も多い。

項目	2020 基準年	2025 夏+秋
植物	682種	606種
哺乳類	8種	7種
爬虫類	10種	8種
両生類	6種	5種
鳥類	96種	45種
昆虫類	716種	496種
魚類	12種	11種
外来生物		
植物	285種	223種
哺乳類	2種	2種
爬虫類	4種	3種
両生類	2種	2種
鳥類	2種	5種
昆虫類	21種	21種
魚類	13種	12種

赤字: 基準年の種数を超過 (外来生物)

外来生物の増加などにより、種数だけでは見えない質的な変化が発生している。このような変化に対応するため、環境を指標する生物"種"に着目した評価を検討する。

# 今後の方針について

- 次期環境基本計画の環境指標の見直しについて提案

これまで全体的な“種数”の増減によって環境の変化を見てきた。

しかし……種やグループによって利用する環境はさまざまで、全体の種数増減のみで環境の評価を行うのは難しい部分もある。

正しく環境の変化を把握するためには、**種(群)単位での変化**を追う必要もある。

◇ 確認種数によらない評価(環境区分・地区など)を目指し、指標“種”的設定を進める

草原



樹林



谷津



水田



水域





ご清聴ありがとうございました。